

第14回日韓アジア未来フォーラム
第48回SGRAフォーラム

アジア経済のダイナミズムー物流を中心に

2015年2月7日(土) 午後1時30分~4時30分
国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室

【フォーラムの趣旨】

日本は、交通・物流システム、自然災害への対策、経済発展と省エネルギーの両立、少子高齢化への対処など、多くの分野において関連する経験や技術を蓄積しており、圧縮成長を成し遂げてきた韓国の経験やノウハウも東アジア地域における将来の発展や地域協力の在り方に貴重な手掛かりを提供している。本フォーラムでは、日韓の先駆的な経験が東アジアの持続可能な成長と域内協力にどのように貢献するかという問題意識に基づき、物流を中心としたアジア経済のダイナミズムに考えてみることにしたい。日韓同時通訳付き。

プログラム

1時30分~35分	総合司会：平川 均（ひらかわ ひとし：国土館大学教授、名古屋大学名誉教授） 開会の辞：李 鎮奎（リ ジンギュ：未来人力研究院理事長、高麗大学教授）
1時35分~2時5分 【基調講演】	アジア経済のダイナミズム 榊原 英資（さかきばら えいすけ：インド経済研究所理事長、青山学院大学教授） 中国やインド等の新興市場国が高い成長を続けています。中国もインドも19世紀初めまでは世界の2大経済大国。“リオリエント”現象とも呼ばれています。インドネシア等東南アジア諸国も高い成長を続けています。日本と韓国、台湾等が先行し先進国になっていますが、次第に成長センターは西に移動しています。おそらく20年後にはインドの成長率が中国のそれを越えていくでしょう。2050年のGDPでは中国がアメリカを抜いてナンバーワン、インドはナンバースリーになると予測されています。
2時5分~20分 【報告1】	東アジアの多国間地域開発と物流協力 安 秉民（アン ビョンミン：韓国交通研究院北韓、東北亜交通研究室長） 最近、北東アジアにおいては国境を越える多国間開発事業が活発に行われています。中国は『1帯1路』という『シルクロード構想』を、韓国は『ユーラシアイニシアチブ』、ロシアは『ユーラシア連合』を推進しています。こうした構想は国際協力を前提にすることであり、特に北朝鮮、中国、ロシア、モンゴルなどの国々は多国間共同開発、共同運営という新しい協力方式を中心に交通、物流施設を建設しています。北東アジアの交通、物流協力の現状と今後の展望を中心に発表します。
2時20分~35分 【報告2】	GMS(グレート・メソ・サブ・リージョン)における物流ネットワークの現状と課題 ド マン ホーン（桜美林大学経済経営学系准教授） GMS 経済協力プログラムの中で、輸送インフラ整備は最も積極的に進められてきたプロジェクトである。なぜならこのプロジェクトは、物流ネットワークの形成を推進することによって国境を越えたモノ、人、マネー、情報と技術の交流促進の効果で、同地域の経済社会の発展を導くことが期待されるからである。本報告は、これらの経営資源の国際移動という視点から、同地域での物流ネットワークの現状を分析し、ソフト（制度など）とハード（インフラシステム）の両面に関わる課題を検討する。

2時35分—55分	休憩
2時55分—4時25分 【自由討論】	進行及び総括：金 雄熙（キム ウンヒ、仁荷大学国際通商学部教授） ミニ報告：李 鋼哲（リ・コウテツ、北陸大学未来創造学部教授） 「アジアハイウェイの現状と課題について」 自由討論：討論者は上記発表者、指定討論者（渥美財団SGRA及び未来人力研究院の関連研究者）、一般参加者
4時25分—30分	閉会の辞：（いまにし じゅんこ：渥美国際交流財団常務理事）
5時～7時	《レセプション》 レストランさくら（D棟9階）にて

講師略歴

■ 榊原 英資（さかきばら えいすけ：インド経済研究所理事長・青山学院大学教授）

東京大学経済学部卒、1965年に大蔵省に入省。ミシガン大学に留学し、経済学博士号取得。財政金融研究所所長、国際金融局長を経て財務官に就任。1999年に大蔵省退官、慶應義塾大学教授、早稲田大学教授を経て、2010年4月から青山学院大学教授。

■ 安 秉民（アン ビョンミン：韓国交通研究院北韓・東北亜交通研究室長）

韓国檀国大学法学部卒、筑波大学社会科学研究所修了。1983年に国会法制司法委員長補佐官、韓国交通研究院、国連 ESCAP、UNDP の国家専門家、韓国交通研究院北東アジア研究室長、動向分析室長、北朝鮮研究室長を経て、2014年11月からユーラシア北朝鮮研究センター所長

■ ド マン ホーン（桜美林大学経済・経営学系准教授）

1990年 National Economics University（ベトナム）経営学部卒業。2003年桜美林大学国際政治経済学研究科学術博士号取得。早稲田大学社会科学総合学術院（旧社会科学研究所）日本学術振興会特別研究員を経て、2008年から桜美林大学ビジネスマネジメント学群准教授。

SGRAとは

SGRAは、世界各国から渡日し長い留学生生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化に立ちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGRAは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。良き地球市民の実現に貢献することがSGRAの基本的な目標です。詳細はホームページ（www.aisf.or.jp/sgra/）をご覧ください。

SGRAかわらばん無料購読のお誘い

SGRAフォーラム等のお知らせと、世界各地からのSGRA会員のエッセイを、毎週水曜日に電子メールで配信しています。SGRAかわらばんは、どなたにも無料で購読いただけます。購読ご希望の方は、ホームページから自動登録していただけます。